チリ外交（バチェレ大統領のブラジル訪問）

１２日，バチェレ大統領はブラジルを公式訪問し，ルセーフ伯大統領と会談したところ，１３日付外務省報道発表及び当地紙報道概要は以下のとおり。

１　外務省報道発表概要

（１）１２日，ブラジルを公式訪問中のバチェレ大統領は，同行したムニョス外相及びフィゲイレド伯外相と共に，「両国の軍事独裁政権下で起こった人権に対する深刻な暴力を解明するための文書交換に関する覚書」に署名した。この覚書は，１９６４－８５年のブラジル軍政期の人権侵害に関する犯罪を調査するために「ル」大統領により創設された，ブラジルの国家真実委員会の活動に役立つだろう。

（２）覚書への署名に先立ち，「バ」大統領は「ル」大統領との二国間会談を実施した。「バ」大統領は，「ブラジルとの関係を再強化するためにここにいられることを嬉しく思う。本日，共に戦略的同盟関係を築いていくことに合意したブラジルは，チリの友好国であり，多くの共通課題がある。これから互いの経験を共有することで，両国の国民が，より質の高い生活を送れるようになることを願う」と述べた。また，「会談の中で我々は，チリが太平洋同盟において果たす役割についても言及し，大西洋地域やメルコスールとの協力の可能性についても検討した。右は，「ル」大統領からも非常に積極的に受け入れられた。チリはブラジルと数多くの協定を有しているが，それを実行に移し，両国にとっての重要なプロジェクトを具体的に前進させなければならない」と発言した。

（３）また会合では，ＳＯＦＯＦＡ（製造業振興協会）とブラジル国家工業連合による共同声明に署名された。チリはブラジルに約２４４億ドルの投資と約４０億ドルの輸出を行っていることから，これは非常に重要である。「バ」大統領は，「（共同声明への署名により）今後も輸出及び投資の促進に向けた取組みを続けていくことに合意された」と述べた。

２　当地紙報道概要

（１）１２日朝，「バ」大統領は「ル」大統領から抱擁をもって迎え入れられ，約４０分間にわたり二国間会談を実施した。これは，ワールドカップ開会式典のマージン会合として「ル」大統領が実施した唯一の会談であった。「バ」大統領は，「今次会合の意義は，政治，経済，貿易，分野，防衛，エネルギー，科学技術といったあらゆる分野で両国関係を強化していくことにつき合意できたことである」と述べた。

（２）また今次訪問には民間の代表者（ミューレンブロックＳＯＦＯＦＡ（製造業振興協会）会長，クラロEmbotelladora Andina社長，ガルシア智伯企業審議会会長）が同行した。訪問中，これら民間の代表者が「バ」大統領と税制改革法案等につき話し合うことはなかったものの，一部関係者の間では，法人税の増額等を規定する税制改革法案の審議をめぐり，「バ」大統領と企業側の関係悪化を懸念する声があることを踏まえ，政府と企業側との協力関係を構築するために招待したとの見方もある。訪問中，民間代表者３名は，税制改革法案に関しては審議の過程で修正や見直しが行われていることも認めながら，重要なことは政府との協調であると述べた。「ガ」智伯企業審議会会長は，「我々が，国の発展に貢献しないと考える税制改革法案のような，いくつかの政策に賛成しないという事実は，政府の他の政策にも賛成できないという意味ではない」と発言した。また，「ミュ」ＳＯＦＯＦＡ会長は「現時点で（政府と企業間の）関係が良いか悪いかが重要なのではなく，今後，より関係を緊密化させ，共通のビジョンを持つことが重要である」と述べた。

（３）会談終了後「バ」大統領はサンパウロにてワールドカップ開会式に出席し，潘基文国連事務総長と懇談したほか，各国首脳陣との昼食会に参加した。その後，開幕戦ブラジル対クロアチア戦を観戦した。

（４）１３日，「バ」大統領はチリ－豪州戦が行われるクイアバへ移動し，州知事及びガスムリ在ブラジル・チリ大使らと会談した後に試合を観戦する予定になっている。（了）